

# [総合大学のスケール・多様性]と[大学院大学の専門性・特殊性]を活かした “知の創出”機能の強化

## それぞれ有する課題を相互に補完しながら解決

【金沢大学】 学士～大学院課程は専門分野の習熟深化型

⇒異分野融合的、学際的な教育研究を展開する仕組みの強化が課題

【JAIST】 世界・全国から学生が参集

⇒地域の足場の形成が課題



・幅広いバックグラウンドを持つ学生に対し、これまでの研究領域を礎としながら、分野・領域融合型の教育研究を展開

・結果として、優秀な人材(学生・研究者)が石川に集うと同時に、石川から地域・世界に優秀な人材を輩出できる

## それぞれが有する強みを相乗的に活用

【金沢大学】

＜強みとなる分野：

数理学、バイオ科学、エネルギー工学、知能ロボティクスなど＞

- ・幅広い分野の教員
- ・大型設備や多様な設備
- ・KUGSに基づく高い素養を備えた学士課程からの進学者
- ・多様な企業・自治体等との協定及び連携
- ・海外政府や大学等との協定
- ・複数の研究分野で世界TOPレベル

【JAIST】

＜強みとなる分野：

イノベーションデザイン、情報科学、ナノテクノロジーなど＞

- ・組織的な大学院教育の先導
- ・知の創造をめざす知識科学に基づくイノベーション教育
- ・すでに多くの講義が英語化
- ・専門的で高度な設備
- ・社会人・留学生・外国人教員の割合は国立大学TOPレベル
- ・教員1人あたりの共同・受託研究経費及び件数も国立大学TOPレベル

## 近接する2大学という「地の利」を活用

・ラボローテーション等の有機的連携により、両大学間で、あらゆる教育研究の「場」と「機会」の共有を実質化

・地域課題を共有するとともに、企業(産業界)・自治体等とも連携し、課題解決に向けた共同研究や共同セッション等を積極的に開催

・外部機関との調整を行う  
コーディネートセンターの設置等、事務連携協力体制を構築・発展



# 融合科学共同専攻における「融合科学」に係る能力等の概念

【資料9】

基礎力である4つのフォースを基盤に、「科学を融合する方法論」を探究・実践。最先端の知見・実践力等を醸成するとともに、理学・工学を核とした異なる分野の知見を融合して新たな知を創出し、社会課題を解決する。

